

(3) 適用基準

準拠基準等

- 建築基準法・同施行令・告示等
- 2015 年版建築物の構造技術基準解説書(建築行政情報センター)
- 鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説(日本建築学会)
- 鋼構造設計規準(日本建築学会)
- 鋼構造接合部設計指針(日本建築学会)
- 建築物荷重指針(日本建築学会)
- 建築耐震設計における保有耐力と変形性能(日本建築学会)
- 建築構造設計基準 平成 25 年版 (国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課)

各工法

- 各種合成構造設計指針・同解説(日本建築学会)
- プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説(日本建築学会)

基礎

- 建築基礎構造設計指針(日本建築学会)
- 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針(日本建築センター)
- 建築基礎のための地盤改良設計指針案(日本建築学会)

地方条例等

- 北海道建築基準法施行条例(北海道庁)

(4) 使用材料

表 3.1.1 使用材料一覧

材 料	設計基準強度 又は品質(N/mm ²)	使用部位	大臣認定の 有無	備 考
コンクリート	Fc30～33	1～4 階	無	
鉄 筋	SD295	各階スラブ	無	D16 以下
	SD345	柱・梁	無	D19-D25
	SD390	柱・梁	無	D29 以上
	KSS785	柱・梁	有	S13

(5) 荷重および外力

【設計用地震力】

静的設計用地震力は、Ai分布とし、加力方向はX・Y方向とします。

$Q_i = C_i \cdot \sum W_i$

Qi:i層の地震層せん断力 (kN)

Ci:i層の層せん断力係数(Ci=Z・Rt・Ai・C0)

Z:地震地域係数 (Z=0.9)

C0:標準せん断力係数 (一次設計時:0.2、大地震動時:1.0)

$\sum W_i$:i層より上部の総重量 (kN)

・地盤種別:第2種地盤

【風荷重】

速度圧 $q = 0.6 \cdot E \cdot V0^2$ (N/m²)

E:速度圧の高さ方向の分布を示す係数

V0:基準風速 $V0 = 32.0$ (m/s)

地表面粗度区分 ☐ I ☐ II ☒ III ☐ IV

【積雪荷重】

☒多雪地域 ☐一般地域

最深積雪量 160 (cm) 積雪荷重 4,800 (N/m²)

比重 30.0 (N/cm・m²)

長期積雪荷重:3,360 (N/m²) 短期積雪荷重:1,680 (N/m²)

【凍結深度】

60 (cm)

表 5.1 積載荷重表

用 途	床用	架構用	地震力用
病 室・廊下	1,800	1,300	600
事務室・診療・スタッフステーション	2,900	1,800	800
手術室・X線・検査	4,900	2,400	1,300
機械室*1・屋外機置場*2	4,900	2,900	2,000
エントランスホール	3,500	3,200	2,100
屋根	3,360	3,360	1,680

※1, ※2:重量機器は実情に応じて別途設定する。